

「大学×地域の重層的なチャレンジ支援」
地域との連携の中で、
学生の挑戦を後押し！

「大学×地域の重層的なチャレンジ支援」とは

地域の経営者による「講義」や多彩な「ボランティア」、地場産業における「実践型インターンシップ」と、異なる形態のプログラムを互いにつながりを持たせて組み立てた教育スタイル。学生はどのプログラムからでも参加できる。学生の教育と地域への貢献を実現。

- 「地域協働型インターン」と「地域活性化システム論」は全学共通教育科目として単位取得が可能
- NPO法人G-netと連携した取り組み
- インターンでは、マーケティングリサーチや広報活動などの実践型プロジェクトに挑戦
- 経験を学びに落とし込むために定期的な振り返りの場「フォローアップ研修会」を開催
- 経営者によるセミナーや社会人基礎スキル研修、コーチングなどの個別サポートも実施

Challenge 01

講義

経営者の想いを聞き、グループワークに取り組む
『地域活性化システム論
～まちづくりリーダー養成講座～』

企業やNPO団体の代表者など地域で挑戦を続ける大人と出会い、必要なスキルや心構えを身につけます。

【講義例】

- 「地域活性化におけるソーシャルビジネス」(講師：G-net代表理事 秋元祥治氏)
- 「「ねこの約束」を通じたまちづくり」(講師：いぶき福祉施設長 北川雄史氏)
- 「グループ演習：地域資源を探そう」(講師：パブリックハーツ代表取締役 水谷香織氏)



1年生春に受講

工学部 機能材料工学科2年
林 兼輔さん

G-netの秋元さんの講義で、アメリカの学生が生物学の知識を利用して地域おこしをした話を聞きました。「自分が学ぶ工学でも同じことを」と思い、地元長野県を工業でおこすために勉強に励んでいます。

岐阜大学工学部 社会基盤工学科
社会資本アセットマネジメント技術研究センター長
高木 朗義 教授

地域の中で働き、学ぶことで、学生は自分に気づき、生き方を探す。

高木 私は岐阜県と連携してまちづくり支援を行っています。その中で各地域の問題解決のためには学生時代からまちづくりリーダーを養成する必要があると感じ、全学共通教育科目の『地域活性化システム論』と『重層的なチャレンジ支援』の取り組みを始めたのです。『重層的なチャレンジ支援』とは地域と学生が交流する機会のバリエーションを増やした結果として生まれたもの。『地域活性化システム論』の講義で地域の経営者と出会い、数週間以上のインターンシップやボランティアに興味を持ってもらう。講義を受

大学と共に取り組む「NPO法人G-net」

岐阜市出身の秋元祥治さんが学生時代の2001年に地域活性化を目的に起業。2003年法人化。地域優良企業における学生の長期インターンシップを中心に、人材育成やまちづくり活動を行う。地域と学生をつなげている。

Challenge 02

ボランティア

チャレンジの芽を育て、人間力を養う
『学生ボラネット』

正式名称：ぎふ学生ボランティア・地域活動ネットワーク構築事業

多彩なボランティアに参加し、地域の人々と活動することで、人間性・社会性の構築をめざします。

【ボランティア例】

- 災害救助の活動
- 無償学習塾のスタッフ
- フェアトレードイベントの企画・運営
- 文化財の見守りや修繕、本の読み聞かせなど

1年生冬から「学生ボラネット」の広報を担当



工学部 社会基盤工学科3年
川口 直秀さん

講義やインターンで地域を良くしようと行動を起こしている大人を目にし、「自分が経験したものをもっと多くの学生に伝えたい」と『学生ボラネット』の立ち上げと運営に携わっています。

NPO法人G-net代表理事
岐阜大学非常勤講師
慶應義塾大学SFC研究所所員(訪問)

秋元 祥治 さん



1年生2月～2年生9月(8カ月間)に大橋量器にてインターン

枡作り体験のインストラクターや企画「枡酒列車」の提案・運営など多種多様な仕事を体験しました。社会で活躍する大人たちと出会うことで考えの幅が広がり、将来の方向性が明確になりました。



教育学部 特別支援学校
教員養成課程3年
長瀬 慶子さん

半年 Challenge 04
インターンシップ

経営者と師弟関係を築き、目標に取り組む
『ホンキ系インターンシップ』

半年から1年間の長期インターンシップで実践的な仕事を通して、主体的な思考や行動力を養います。

【インターンシップ例】

- カフェ・催事販売などのマニュアル作成 (ベーグル屋 エルクアトロギヤツ)
- 枡商品に関するイベントの企画・提案、運営 (大橋量器)

けなくとも、各取り組みに参加できるので、重層的と呼んでいます。

秋元 地方で数週間以上のインターンシップが活発なのは岐阜大学だけ。先生がこの取り組みを我々が行う理由は何でしょうか？

高木 一番には大学単体ではこうした取り組みが難しく、インターン生を送りつばなしという例も少なくないこと。現場で学生が困った時のフォローやサポートが大切です。インターンシップに対して専門的に取り組んでいるG-netとの連携は、地元企業と大学にとって多くの相乗効果が期待できます。

秋元 我々はまず、事前に企業と打ち合わせをし、企業が抱える問題などをヒアリング。学生と協働するプロジェクトも提案するんです。学生がプロジェクトに本気で取り組むと会社の利益にもつながる。これがこの『地域協働型

夏・春休み Challenge 03
インターンシップ

地域のさまざまな現場で貢献しながら学ぶ
『地域協働型インターン』

春夏の長期休暇を利用した実践型プログラム。マーケティングやまちづくりの企画運営等に取り組みます。

【インターンシップ例】

- 地域密着型の高級スーパーでの販路開拓の可能性をリサーチ(山川醸造)
- 着地型観光プログラムの広報(長良川おんぼく事務局)
- 郡上明宝地区のトマト農家リサーチ(ななしんぼ)



工学部 生命工学科3年
塚原 彰仁さん

2年生春休みに大橋量器にてインターン

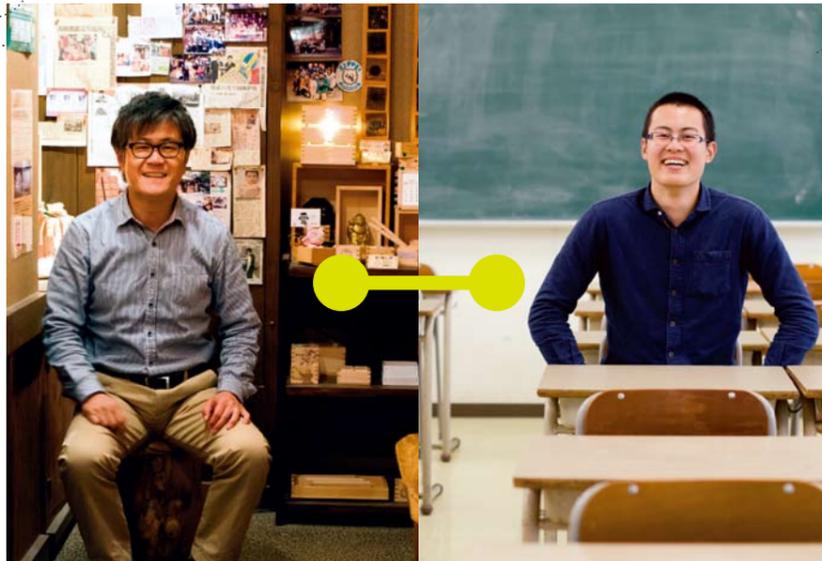
初開催の「枡まつり」の運営リーダーとして、まつり全体の統括を行いました。企画や運営で多くの人と関わり、協力してもらうことの難しさや喜びを学びました。

経営者と学生との ●●● 点と点を結ぶ出会い

ホンキ系はパートナー的な存在に、
地域協働型にはマーケティングを。

「地域協働型インターンシップ」で来た久世さんの場合は冬に向けての枞の材料確保の時期だったので、製材所のリサーチや訪問のアポ取りをお願いしました。最初は人見知りでしたが、最初は自分から積極的に動けるようになっていった。その成長には驚きましたね。

学生に教えられることも多いです



毎日、インターンに取り組むような気持ちで過ごしています！

結果を残したことが自信に。
内向的から積極的な自分に変化。

私が「地域協働型インターンシップ」に参加しようと思ったのは「長期インターンフェア」がきっかけです。先輩方がみな堂々と話す姿を見て「自分もこうなりたい」と思いました。私はインターンに行くまで、人見知りで内向的でした。最初に行った大橋量器では材料の仕入れ先を開拓する仕事を任せられたのですが、はじめは電話をするのも手が震え、1日1件かけるのがやっとでした。しかし一緒に入った他のインターン生たちの話を聞き、「自分は何も結果を残せていない」と実感。そこで事前に話の内容をまとめて電話をするというのを100件ほど繰り返すうちに自信が付き、結果として2社と正式な取引を進めることができ、大きな達成感を味わいました。

久世さんのチャレンジ

長期インターンフェア等に参加

1年生夏
「地域協働型インターンシップ」(大橋量器)

1年生冬(1カ月間)
「みちのく復興インターン」(ETIC主催)

最近は何事も積極的に取り組めるようになり、学ぶことが楽しいです。今は教育学部の運動会も企画中。学科を越えてつながりたいですね。ぜひ実現したいと思っています。

有限会社大橋量器
代表取締役
大橋 博行 さん

教育学部
数学教育講座2年
久世 英貴 さん

【有限会社大橋量器】



伝統的な「枞」の専門メーカーとして、大垣市で60年以上にわたり木製枞を製造販売。工場に隣接するアンテナショップでは焼き印を施したオリジナル枞など多彩な商品を販売。アメリカでも評判を呼ぶ。

「地域協働型インターンシップ」で来た久世さんの場合は冬に向けての枞の材料確保の時期だったので、製材所のリサーチや訪問のアポ取りをお願いしました。最初は人見知りでしたが、最初は自分から積極的に動けるようになっていった。その成長には驚きましたね。お互いのいい起爆剤となれるよう今後も積極的に受け入れたいと考えています。

受賞歴

「重層的なチャレンジ支援」

- 地域仕事づくりチャレンジ大賞2012 奨励賞受賞
(チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト主催)
- 社会人基礎力育成グランプリ2013中部地区予選大会 奨励賞受賞
(日本経済新聞社主催、経済産業省共催、文部科学省後援)
- 「地域活性化システム論」で学生が発案した「獣肉ジャーキープロジェクト」
- 第7回土木計画学公共政策デザインコンペ
土木計画学委員会賞・奨励賞受賞(土木学会主催)



若者を中心とした地域づくりの事例を評価する「地域仕事づくりチャレンジ大賞2012」。各地から約400団体の応募があり、12団体が本大会に参加。学生の川口さん(左)も大会に挑み、奨励賞を受賞。

インターンシップへの参加実績

	1年	2年	3年	4年	計
地域協働型	8人	3人	1人	1人	13人
ホンキ系	9人	14人	11人	0人	34人

岐阜大学と地域企業と、
より深い連携を目指します。

挑戦し続ける企業が
将来を担う学生を育てます。



Let's
Challenge!

秋元 将来、自分が一番活躍できるところへ進むためにもぜひ挑戦してもらいたいですね。

高木 そのためにはこれからの大学は地域が抱える課題を気軽に持ち込むことができ、学生と一緒に解決する場となるべきです。地域の人々と一緒に学びあう中で、自分の力を発揮し、生き方を見つけてもらいたい。「重層的なチャレンジ支援」に飛び込むのはそのいい機会です。

秋元 大学で学んだことを生かす専門性の高いインターンシップを考えてもいいですね。高木 学生にはこの経験から、社会に出てからも挑戦し続ける大人になってもらいたい。またお祭りや行事など、その地域にいるからこそできることを見つけて取り組んでほしいと思っています。

秋元 こうした実践型のプログラムの場合、目標設定と振り返りが教育効果を高めるために重要だと考えています。例えば失敗にどんな意味があるかを知ることは、次のステップに進むいい経験です。振り返ることで学生の授業に取り組み姿勢も変わりますよ。

高木 より授業に対して能動的になり、学びが深くなりますね。今後は学生が「地域協働型インターンシップをするのは当たり前」と思えるように、もっと活動の裾野を広げていきたいと考えています。

秋元 大学で学んだことを生かす専門性の高いインターンシップを考えてもいいですね。高木 学生にはこの経験から、社会に出てからも挑戦し続ける大人になってもらいたい。またお祭りや行事など、その地域にいるからこそできることを見つけて取り組んでほしいと思っています。

秋元 大学で学んだことを生かす専門性の高いインターンシップを考えてもいいですね。高木 学生にはこの経験から、社会に出てからも挑戦し続ける大人になってもらいたい。またお祭りや行事など、その地域にいるからこそできることを見つけて取り組んでほしいと思っています。